

対ソ干渉戦争に「世界革命」で対抗



1922年
 社会主義革命の波及を恐れた
 資本主義諸国の干渉に対抗して、
 ソヴィエト政権は「世界革命」の
 推進を目ざした。

社会主義革命の波及を恐れた 資本主義諸国

社会革命党を排除し一党独裁体制を確立したボリシエヴィキは1918年に共産党と改称し、首都をモスクワに移した。また、第一次世界大戦以来の食糧不足を解消するため、労働者を農村に送り込んで作物を強制的に徴発したが、そのために各地で農民反乱が発生、反革命運動が各地で起こったため、誕生したばかりの社会主義国家は内戦状態に陥った。これに対しソヴィエト政府は、チエカ非常委員会や赤軍を組織して反革命運動などの取り締まりにあたった。

一方、ロシア革命の影響で国内の労働運動や植民地の民族主義が高まり、革命が自国に波及することを恐れた資本主義諸国はソヴィエト政府を敵視した。

対ソ干渉戦争と コミンテルンの結成

1918年からは、ボリシエヴィキ軍と衝突したチエコ軍の救出を名目に、英・仏が北ロシアに軍隊を派遣、日本もアメリカなどとともシベリアに出兵するなど、対ソ干渉戦争が開始された。

外国軍とそれに呼応したロシア国内の反革命軍(白軍)は、一時国土の大部分を占領したが、外国軍の侵入はかえってロシ

ア民衆の愛国心をよびさますこととなった。次第に支持を拡大したソヴィエト政府は、全工業を国有化し、農民からは食糧を徴発するなど、徹底した戦時共産主義によって政治・経済の統制を図ったほか、赤軍を強化して反撃。また、19年3月には各国の革命勢力を結集して「世界革命」を実現するためコミンテルン(第3インターナショナル)を設立。これにより各国で共産党が誕生した。

こうして外国軍の干渉を排したソヴィエトは、中央アジアやカフカス地方の共和国を支配下におさめ、22年にはソヴィエト社会主義共和国連邦を形成した。

ドイツ革命の失敗と 一国社会主義

世界革命を主張するソヴィエト政府は、1918年11月から始まったドイツ革命に期待をかけていた。水兵の反乱に端を発したドイツ革命は、その後各地に労兵レーテ(評議会)が結成されたが、社会民主党を中心とする臨時政府はスバルタクス団などの左派勢力を抑え込んだほか、労働者らによるベルリン蜂起なども鎮圧し、社会主義革命は成立しなかった。こうした革命の失敗により、ソヴィエトでは次第に「一国だけ社会主義を建設する」「一国社会主義」の考えが台頭するようになった。

世界へ広がるロシア革命の影響

